



会津医療センターから こんにちは！



【4】

研修医
柳田 真衣

『総合内科と専門科』

この春から医師として、そして社会人としてスタートしました。初期研修医一年目で、毎日が初めてのことばかりです。

研修医にどんな印象をお持ちでしょうか？「一応、医師だけど…本当にわかるの？」という感じでしょうか。はい、まさしくその通りです。学生のときに必死に勉強するのは病気の典型例と治療法で、膨大な疾患を広く浅く学びます。皆さん一人一人に合った医療ではありません。実際に診療に当たって痛感するのは、とにかく毎日がわからないことばかりということです。判断の基準への理解が曖昧であったり、薬の量や使い分けがわからなかったり…。挙げればきりがありません。そのため、さまざまな科の経験豊富な先生方から専門的なことを学び、みなさんから症状や経過を学び、ある程度の判断ができるように医師としての基盤造りをしているのです。

そんなことを聞くとますます不安になりそうですが、それはごもっとも。私たちも、おそらく皆さん以上に不安で怖くて仕方ありませんので。私のせいでみなさんに不利益が生じたらと思うと薬の処方1つでさえドキドキなのです。しかし、その不安があるからこそ、安心できるように勉強をして、皆さんからお話を伺って、上級医に教えていただき、また勉強をして…と日々精進しています。研修医室で研修医同士や指導医を交えてディスカッションをしていると、気がついたときには日付が変わっていたなんてこともしばしばです。

このように、まだまだ親鳥の後を追いかける雛鳥のような私たちですが、皆さんの笑顔のためにという気持ちだけは負けていません。皆さんに寄り添っていきたい。その想いが届いていると実感する喜びが私の原動力です。皆さんのつらいこと、心配なこと、わからないこと、偉い先生方にはちょっと聞きにくいことなど、何でも教えてください。それが私たちの喜びであり、学びであり、皆さんにとっての癒やしとなればと願っています。

医師としても社会人としてもまだまだ未熟な研修医。つまりいは振り返り、次の一歩も忘れずに、と少しずつですができることも増えています。ぜひ、これからの成長を温かく見守っていただければ幸いです。